

生涯学習を学ぶために—生涯学習研究最前線

聖徳大学 西村美東士

日時 2017/08/20

場所 日本福祉教育専門学校本校舎 4F141 教室

講演のねらい

個人化社会のなか、個人に自己決定、自己選択が迫られているにも関わらず、個人にとっては、**社会での自己の位置決めが困難**になっています。

この講演では、私の生涯学習研究の最近の検討内容を報告します。そのことによって、現代人が生涯にわたって学び、つながり、支え合い、個を深めて「花の生涯」を全うするプロセスを理解するための見方・考え方を見いだします。その視点とは、**心理学を含めた各専門領域のコラボによる個人化と社会化の一体的理解**にほかなりません。このことによって、人々の暮らしと仕事のニーズに根ざした総合的な追求と専門領域を超えた協働を呼びかけたいと思います。

プログラム

1. グローバル化・ボーダレス化の今日における課題解決の方向
2. 早わかり生涯学習—従来の生涯学習への理解とその隘路—
3. 切羽詰まった人、それほど切羽詰っていない人
4. 個人化と社会化の一体的支援

1. グローバル化・ボーダレス化の今日における課題解決の方向

日本子育て学会では、これまでの保護者、支援者、研究者の三位一体の学会活動をもとに、**子育て者や子育て支援者のニーズに立脚した子育て支援学の体系化**を目指しています。

この場を借りて、幅広い保護者・支援者・研究者の学会入会と参画を呼びかけます。



図 ママチームワーク成果
「子育ての課題」プレゼンより

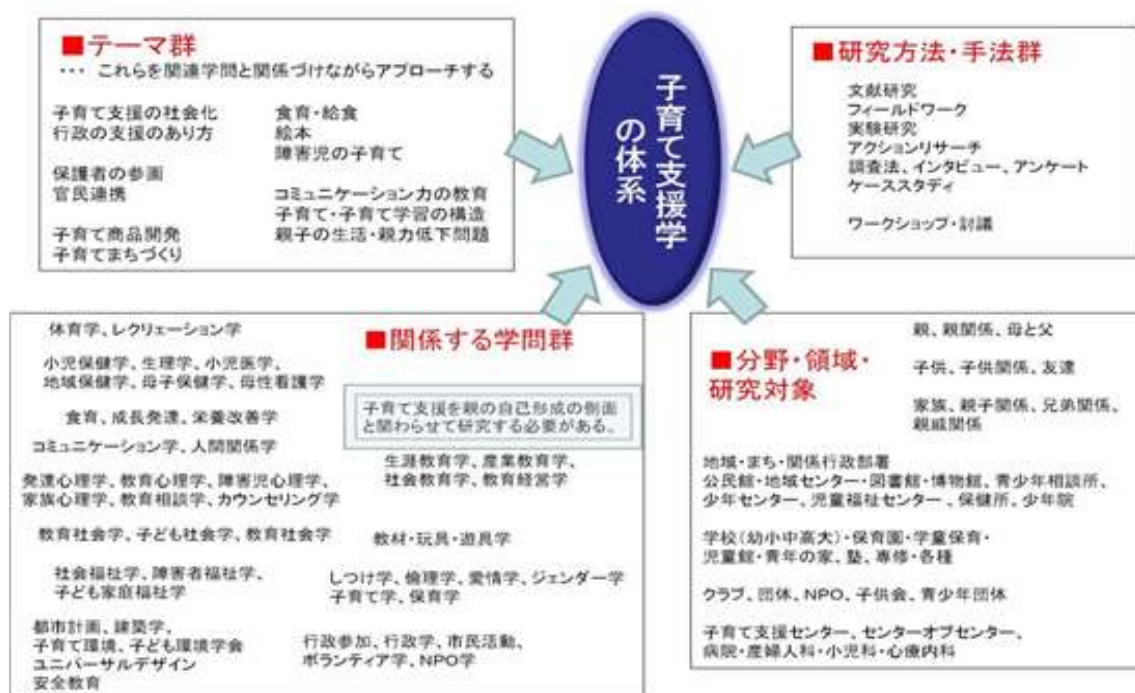


図 子育て支援学の体系

2. 早わかり生涯学習—従来の生涯学習への理解とその隘路—

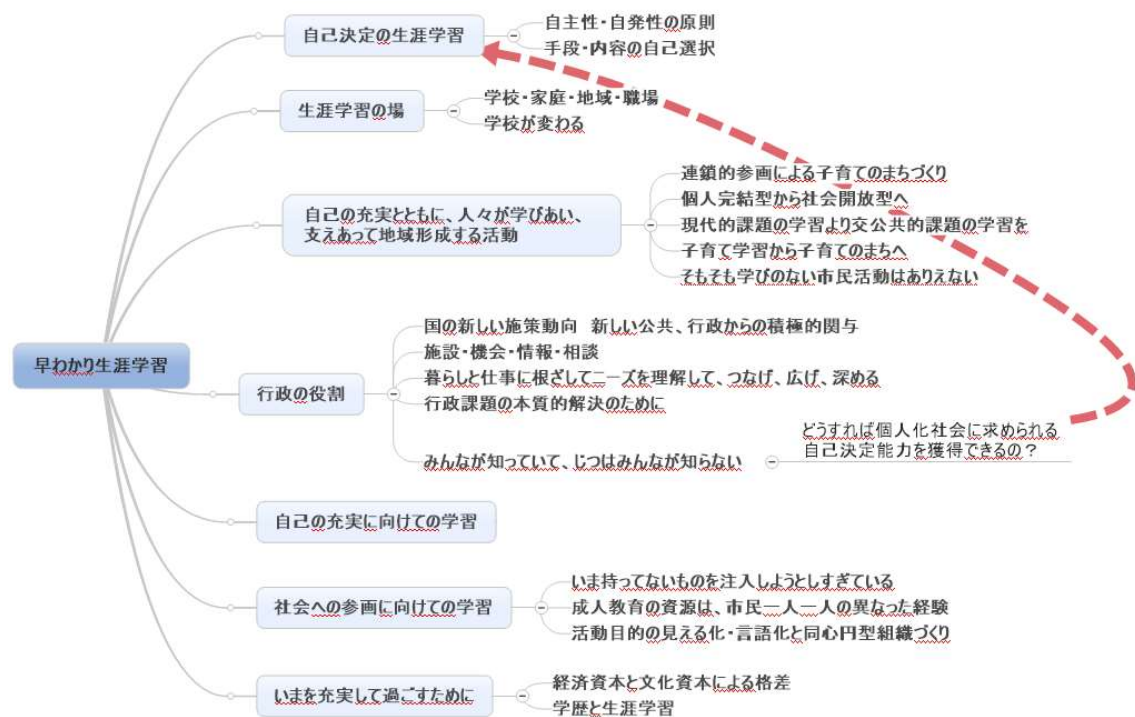


図 早わかり生涯学習

生涯学習とは、**自らが手段・内容を選んで行う学習・文化・スポーツ・レクリエーション・**

ボランティア・まちづくりにおける自己形成活動を指す。そこでは、自己の充実とともに、地域で人々が学び合い、支え合う**社会形成活動としての成果**が注目される。

3. 切羽詰まった人、それほど切羽詰まっていない人

狛プー(狛江市中央公民館青年教室)

狛江フリースクール「コピエ」(前田さんとK君)

「人間関係調整力育成講座」

彼らが望む職場環境

「図解ワークショップ」→右図参照

多様な者の意見交流

「自己相対視ワーク」

職場に「いい人」がいなかったらどうするか →
責任ある仕事につきたくない 指示待ちで仕事を
したい

社会と言われてもピンとこない。世間ならわかる
世の中に出たら土砂降りだった →戻り場の必要
個人化社会の自由 →前提であり、そこから出発
したい

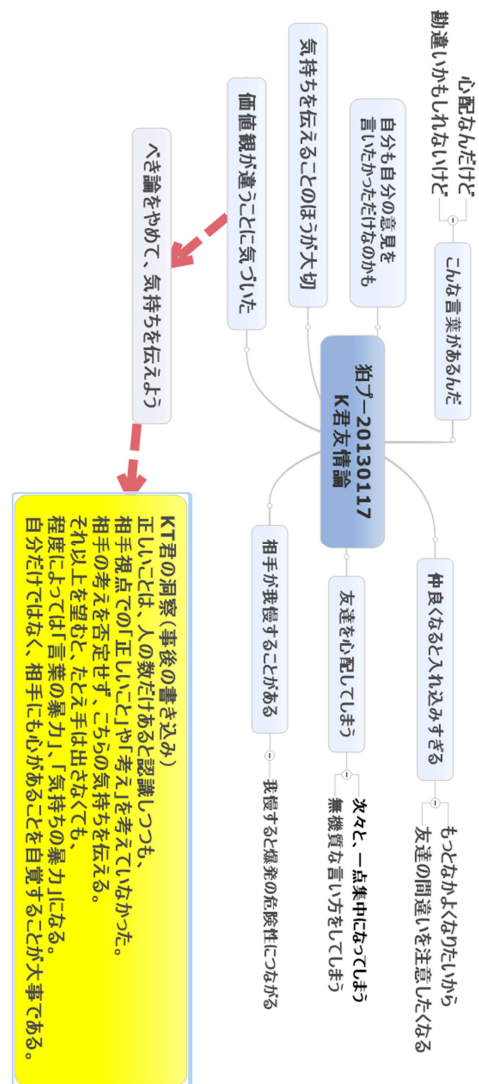
「自己客観視ワーク」

歯車→パーツ

中間的就労支援で仕事をしていて、パートのおば
さんたちから指示を仰がれる。それは今でも辛い。

「講師のいない料理教室」 →「してあげる」

「紙芝居教室」 →「魅力ある高齢者の存在」



神戸・杉並若者調査から見えること

(青少年研究会ホームページ参照)

貫徹志向交渉型」「(どんな場面でも自分ら
しさを貫くことが大切」だと思っていて、
「友達と意見が合わなかったときには、納
得がいくまで話し合いをする」タイプ) が

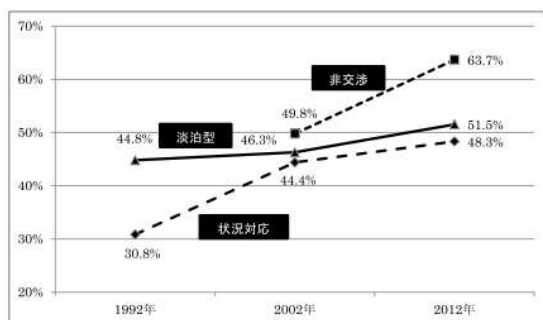


図2 「淡泊型」の増加との比較

生きづらくなっている。

夢を持たない「普通の」女子学生

「いま楽しい、幸せ」

「とことん話し合わなくても、ご飯に一緒に行ける子がいればよい」

「処遇が伴わないのに、人を動かす責任ある地位には就きたくない」

不透明社会、不安社会をうまく泳いでいる？ これしかない？

ごく一部、「本当の自分はいったい何なのか」と悩んだ学生がいる

認知症当事者の活動（柏地域福祉ネット“風の木” 北川邦彦さん）

意地でやっている、所属する組織、地域は家族と同じ。

「いやなところ」だと言いたくないから、改善する。

ポスティング、御用聞き活動、敵・味方のかぎわけ能力

4. 個人化と社会化の一体的支援のために協働を

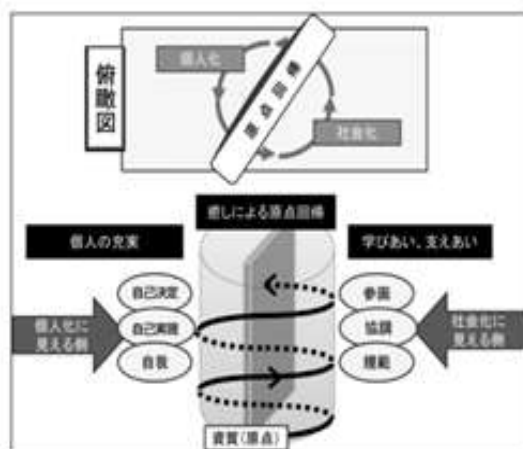


図1 個人化・社会化・原点回帰のプロセスモデル

社会に参画する個人を求めている。しかし、生涯学習研究はマクロすぎて、個性の側面に無頓着だった。心理学はミクロすぎて、課題を横つなぎでできなかった。そして、政策は個人化と社会化のあいだをぶれ続け、政策進行は滞ってきた。

これを解決するのは、時代、対象、価値観の変化に対応する「現場力」（臨床の知）である。そのためにまず、個が個に対応する心理と、集団に対応する教育の協働を進めたい。

エリート層の「自己実現論」（マズロー）から抜け出し、左図のような寛大さで支援を進めるほうが柔軟性に富んでいて、かつ、生涯学習の精神を実現することになるだろう。

今日の社会は下図のように自立して

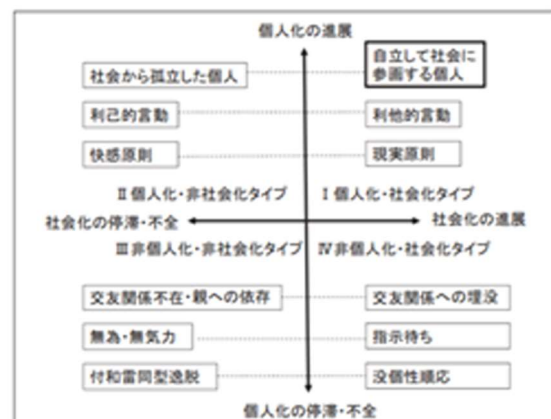


図2 青少年の個人化と社会化の不全と進展